

持続的成長に向けた取組み

テルモ株式会社

代表取締役社長

新宅 祐太郎

2015年5月8日

FY14決算説明(再生ロードマップ)からの進捗

■FY13-14は足場固め

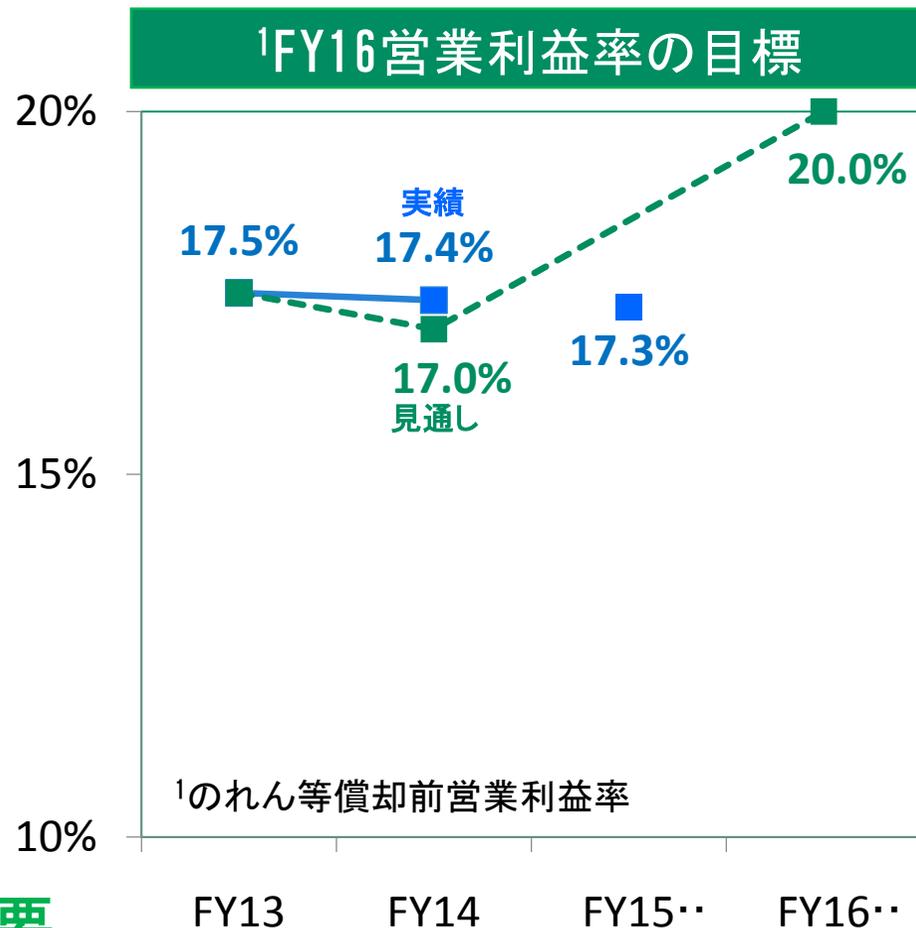
⇒欧州ホスピタル再編、
長春血液工場閉鎖を実施

■FY14の業績目標の達成

⇒心血の伸びによって最高益を記録

■FY16に営利率20%達成を目指す

⇒血液、ホスピタルの収益改善が必要



環境変化への積極的対応

■ ガバナンス環境の変化

- 改正会社法『監査等委員会設置会社』への移行
 - コーポレートガバナンスコードへの対応
- ⇒いずれも攻めのためのガバナンス強化

■ 社内的にはグローバル経営基盤強化

- 6名のCXOを設置、事業と車の両輪

■ 通貨変動への対応

- 事業構成の改善、生産配置再検討

心臓血管カンパニーのハイライト

■ インターベンショナル・オンコロジー(がん治療)の拡大

- 二桁成長が見込める
- テルモのユニークな競争力が発揮できる分野

塞栓療法からの展開、自社開発塞栓剤CEマーク取得

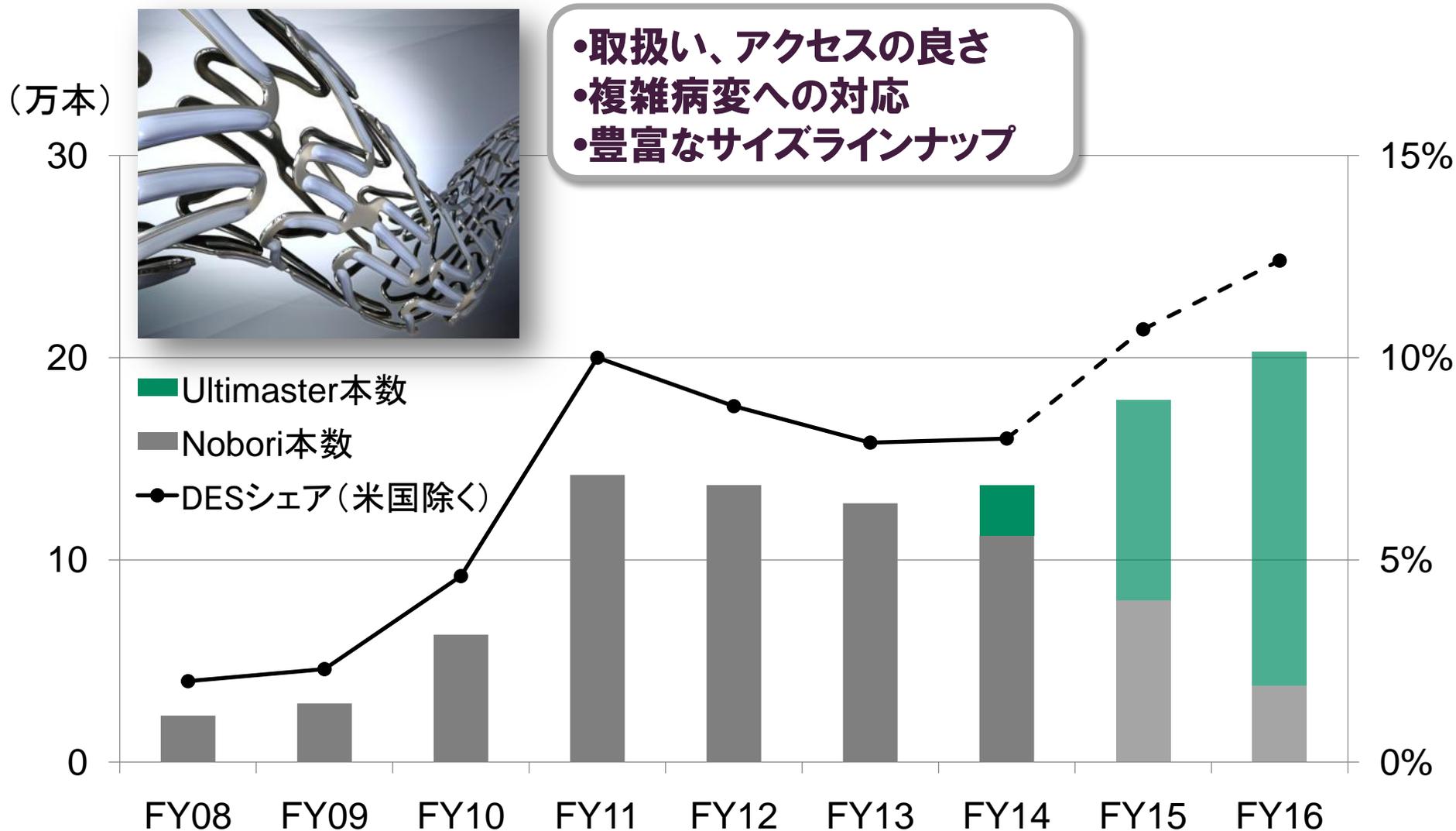
殆どがフェモラル ⇒ TRIの普及を図る

■ Ultimasterの国内ローンチ、拡販

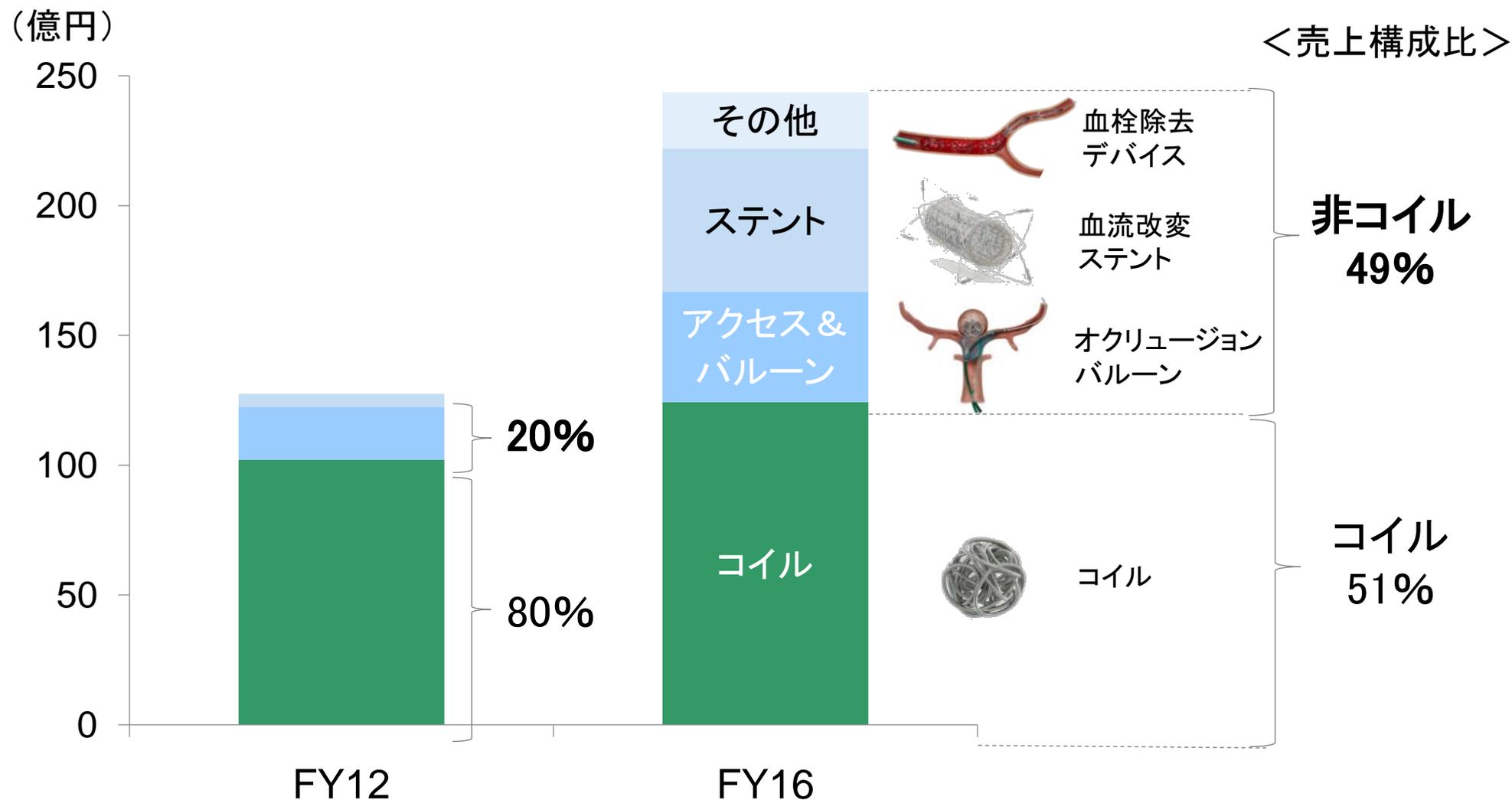
■ ニューロ: コイル以外の新製品の本格拡大

Ultimasterの国内ローンチ、拡販

ピーク時のDESシェアは、過去最高の10%を上回る見通し



ニューヨーク:コイル以外の新製品の本格拡大



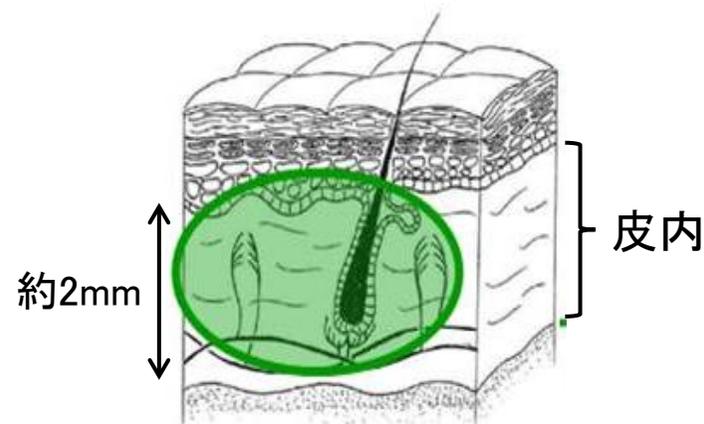
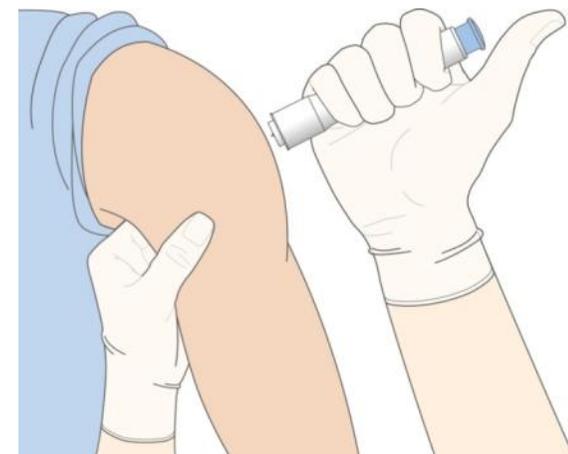
ホスピタルカンパニーのハイライト

- 生産技術革新による輸液事業改善
- 血糖自己測定器：国内トップを目指す
- 『針・注射器』の進歩
 - プレフィールド(1999年-)：医療安全
 - ナノパス(2005年-)：患者QOL
 - 皮内投与デバイス(2015年*)

注射に見えない注射

免疫活性の高い皮内への正確な投与

*製造販売承認申請中



血液システムカンパニーのハイライト

■ 価格下落に対応した効率化、原価削減

- テルモBCTベトナム稼働開始 FY15/Q3予定

■ 高付加価値事業の成長(過去3年成長率10%)

- アフェレシス治療
対象疾患の拡大
- 免疫細胞療法への貢献
がん細胞免疫療法



血液治療用分離装置



細胞増殖システム

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。